

成人看護学実習Ⅱ（障害とともに生きる人を支える看護）

I. 目的

重症心身障害児者施設に長期入所している重症心身障害児者と家族を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う。

II. 目標

1. 対象である重症心身障害児者を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。
2. 重症心身障害児者と家族の QOL 維持・向上のための援助が実施できる。
3. 重症心身障害児者施設における対象を取り巻く保健医療福祉の実際と、連携における看護の役割を理解できる。

III. 実習時期

2 年次後期～3 年次後期

IV. 実習場所

南岡山医療センター：つくし 1・つくし 2 病棟

III. 行動目標および学習内容

実習目標	行動目標	学習内容
1. 対象である重症心身障害児者を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。	1) 重症心身障害児者の身体的側面が述べられる。 2) 重症心身障害児者の精神的側面が述べられる。 3) 重症心身障害児者の社会的側面が述べられる。 4) 重症心身障害児者に起こりうる二次的障害や合併症が述べられる。	疾患の病態、変形・拘縮の程度、筋緊張、摂食・嚥下機能、食事の形態、排泄状況、運動機能、コミュニケーション機能 認知機能、情緒機能 家族関係、成育歴、他者との関係性 誤嚥、呼吸機能障害、消化器障害、骨折、脱臼、外傷、窒息
2. 重症心身障害児者と家族の QOL 維持・向上のための援助が実施できる。	1) 対象のニーズを読み取ることができる。 2) 対象の異常を早期に発見するための観察ができる。 3) 対象の症状の悪化を予防するための援助が述べられる。	対象の言語的・非言語的コミュニケーション手段、快・不快の表現方法 病態生理、症状発生や二次的障害発生のメカニズム、フィジカルアセスメント 早期発見の必要性、検査、変形・拘縮予防、薬物療法、理学療法、呼吸管理、排便コントロール、感染予防、事故防止、褥瘡予防

実習目標	行動目標	学習内容
	<p>4) 対象の残存機能に応じた日常生活援助が実施できる。</p> <p>5) 対象を尊重した援助が実施できる。</p> <p>6) 対象に対する余暇活動の必要性和支援の実際が述べられる。</p> <p>7) 対象の家族が障害をどのように受け入れているかが述べられる。</p>	<p>移動・移送、食事介助方法、排泄援助方法、清潔援助方法、更衣、ポジショニング、環境整備</p> <p>対象の意思を取り入れた援助方法、生命の尊厳、人権擁護</p> <p>療育活動の必要性、療育活動内容、散歩・外出・外泊支援</p> <p>障害受容、自責の念、家族の役割の変化、意思決定</p>
<p>3. 重症心身障害児者施設における対象を取り巻く保健医療福祉の実際と、連携における看護の役割を理解できる。</p>	<p>1) 対象が活用している社会資源と法的根拠が述べられる。</p> <p>2) 対象を取り巻く保健医療福祉チームにおける職種とそれぞれの役割が述べられる。</p> <p>3) 対象を取り巻く保健医療福祉チームにおける看護師の役割が述べられる。</p>	<p>障害者総合支援法、身体障害者福祉法、児童福祉法、身体障害者手帳、療育手帳、成年後見制度、育成医療、重度心身障害者医療費助成制度</p> <p>施設における職種、各職種の役割</p> <p>多職種間連携の方法・必要性、健康管理、看護師の責務</p>